

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style

[ビズスタ東京]

特別版

2018 12

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都、仙台、福岡、広島、岡山にて68万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作／株式会社ディリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
© 2018 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



愉楽の箱根。

東京からクルマでわずか約1時間20分。近場気分であくせうに週末を過ごすに絶好のアクセスを誇る「箱根」には、いまこの誌面をご覧の方の多くが一度は訪れたことがあるのはずだ。朝、目覚めて「今日はとても天気がいいので、ドライブがてら温泉にでも」と思わせてくれる、東京都民の身近な観光地。その魅力は改めて説明するまでもないだろう。…の一文で済ませそうになるが、実はそうとも言えなかつたりする。

箱根は、想像以上に見どころや楽しみ方の幅が広い。裏を返せば、私たちの大半が「実は箱根をよく知らない」とを意味している。

町の発表によれば、昨年1年間で実に約2152万人もの観光客が訪れたという。大観光地箱根は、東京近郊としてはまさに「自然の宝庫」だ。四季を通じて人々を魅了する要素に溢れ、いつ訪れても言葉を失って見惚れるような景観で目を楽しませてくれる。

その自然美の生みの親とも言える存在が、箱根山だ。古くから「天下の険」として人々に畏怖の念を抱かせた箱根山は、実は首都圏から最も近い活火山でもある。最近では研究が進み、複数の火山が集まって形成された火山帯の一部という説が有力となっているそう。約40万年〜23万年前から噴火を繰り返してきたが、現在の芦ノ湖や仙石原、大涌谷を形成したのは約3000年前の噴火と考えられている。

火山の噴火は、人々の日常生活を一気に破壊する自然災害だが、その一方では、人の心を癒す美しい環境を造り上げた母でもある。ご存じの通り、火山大国と温泉大国という言葉はほぼ同義として用いられているが、現在では「箱根二十湯」と讃えられるほど多種多様な湯煙情緒も、そこに人が集まることで生まれた史跡の充実度も、もとを辿れば火山活動の恩恵とも言えるのだ。

そこで今回は、ほぼ全域が国立公園であり、関所などの見どころにも恵まれた箱根の魅力、駆け足で眺めてみたい。次ページからは、箱根の魅力について、もう少し詳しくご紹介しよう。

意外に知らない箱根の素顔とは… 今日にでも行ける温泉地の魅力を駆け足で紹介！



全国の箱根ファンの想いが、「噴火」前を超える賑わいを形成中。

東京のお隣り神奈川県西部に位置し、クルマだけでなく電車でもアクセスしやすい箱根。箱根の玄関口である「箱根湯本」外国人向けリゾートとして早くから開けた「宮ノ下」個性的な美術館が集まる高原リゾート地「仙石原」富士山を望む風光明媚な「芦ノ湖」、古くから別荘地として開発されてきた「強羅」など、様々な魅力を持つエリアが点在しており、いずれも美しい四季の風景が全国各地から押し寄せる観光客を魅了している。

なぜ箱根の自然はこれほどまでに美しいのか

かつて文豪たちが拠点を構えて長逗留と洒落込んだというエリアを多く耳にする。彼らの創作心を刺激したであろう景観の美しさには、実は理由がある。表紙でも触れたが、火山活動で形成された箱根一帯は、いわゆるカルデラ地形。標高差が激しいため、近い場所でも気温がかなり違うのだ。したがって、たとえば春の桜は、標高の低い場所と高い場所の開花時期に時間差が生じる。4月初旬は湯本付近で咲き、ゴールデンウィーク前後には芦ノ湖で満開に...という具合だ。

これはいまの時期の紅葉にも当てはまる。桜とは逆に高い場所から順に秋めいていくので、地域ごとに個性を持つ美を長く楽しむことができるわけだ。

もちろん、ひとりの絶景スポットに絞っても、四季感は極めて豊かだ。たとえば芦ノ湖畔では秋は色づき、冬には雪をかぶった雪峰富

進化を続けているわけだ。

火山の噴火にも負けず箱根に集まる観光客たち

さて、火山活動で生まれた箱根は発展を続け、多い年では2000万人を軽く超える観光客が訪れる。昨年は前年比で10%ほど増加したそうだが、その背景には2015年の大涌谷エリアでの噴火がある。

当時の報道ラッシュは記憶にも新しいが、実はごく小規模な噴火だったことをご存じだろうか。大涌谷周辺のみと影響も限定的だったのだが、町全体が大噴火に吞まれたような印象が形成されてしまい、年間観光客数も2割ほど減少。2000万人を大きく割り込んだという。人々がいかに噴火を危惧したかが伝わってくるが、このエリアには続きがある。それが表紙で紹介した約2152万人という2017年の観光客数なのだが、実はこれ、何と噴火が起きる前の年の実績を超えてしまったというのだ。

火山の噴火に負けず「箱根に行きたい」人々

「オール箱根」として民と官とが一体となった正確な情報発信活動も功を奏したのだが、それとともに効果的だったのが、たまたま箱根町として同時期にリニューアルしていた「ふるさと納税」だ。もとは観光地としてのもてなし品質をさらに磨くためのインフラ整備などにかかる経費を賄うのが目的だったが、蓋を開けてみると、町が驚くほどの寄附が

土の美景を満喫できる上に、条件を整えば、逆さ富士も鑑賞可能。これほどまでにバリエーションが豊かな自然美を味わえるのは、東京近郊では珍しいかもしれない。

火山と自然から始まる観光地の「進化」の物語

箱根の自然美の最たるものが、代名詞である温泉だ。規模も泉質もさまざまな源泉がひしめく日本有数の温泉街は、湯治文化の聖地とも言える存在。出かける際は、立地のほか「疲労回復」から「美肌」まで湯の種類で宿を選べばいいのだ。

湯理に人が集まれば、もてなしの文化が発展する。美術館や博物館の多さは昔から有名だが、加えて移動のための乗り物も箱根旅行のポイントのひとつとなっている。全国的な知名度を誇る登山電車を筆頭に、その標高差を体感できるケーブルカーやロープウェイなど、のんびりと乗り悠遊しながら、自然と温泉、ミュージアムを巡る休日。これだけでも魅力的だが、さらにもうひとつ、箱根ならではの要素がある。観光客が増える近年の箱根は、観光地としての性格を強めているのだ。

蕎麦や小田原・真鶴直送の海産物には有名だが、最近ではパンやスイーツの名店、ビュッフェなど食の名所が続々と誕生。元来のアクセスの良さもあり、良を自当てとした小旅行が人気を高めているという。それに併せて、旅館やホテルのグランドオープンも多数、火山から始まる物語は、途切れず

集まる。

寄附の部には、町に対する応援メッセージが添付されていた。ここではその例をご紹介します。

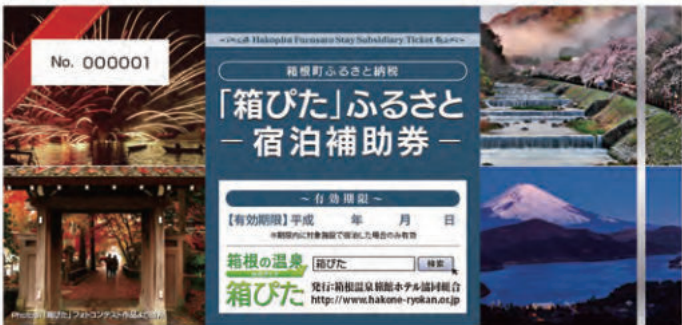
「一時火山の影響で観光客が減り大変なところだと思います。コースにて現地の方のインタビューを拝見し、事の重大さがひしひしと伝わってきました。自然には敵いませんが、何とか頑張ってください」

「箱根山の噴火が気になるります。安全情報を適切に流して、風間に影響されない観光地としてください。応援しています」

「子どもの頃から毎年箱根でお正月を過ごし、今も時間があれば温泉に行っています。家族三代の思い出の詰まった大切な場所です。応援しています」

人々の想いに応えるために、箱根町のふるさと納税では「実際の箱根を現地で満喫する」ことをコンセプトにした返礼品が多い。その代表例が箱ひた ふるさと宿泊補助券だ。これは現地102軒の宿泊施設で使える共通宿泊補助券(2018年10月現在)。まさにここで紹介した箱根ファンの声をタイレクトに受け止める形の返礼品となっており、最短なら何と寄附してから1週間以内で使うことができることもあって、すこぶる好評とか。

続ページでは、箱根独特の「現地体験型返礼品を中心」に、いくつか紹介しよう。



本紙おすすめ! 箱根町 ふるさと納税 返礼品
箱ひた ふるさと宿泊補助券

2万円分の宿泊券として利用可能。

寄附金額 70,000円から 交換ポイント 2670ポイント

事業者/箱根温泉旅館ホテル協同組合 TEL.0460-85-5571



